

特集

12月3日～9日は「障害者週間」

ともに支え合おう

共生社会の実現へ

毎年12月3日～9日は「障害者週間」です。障害者週間は、平成16年6月の障害者基本法の改正により、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的に定められたものです。この機会に、共生社会について考えてみませんか？



中島俊樹さん。彼はハンデを抱えながらも輝ける場所を見つけ、絵画という舞台で自らを精一杯表現しています。

助け合えるまちを目指して

「俊樹さんの絵は力強くたくましい。言葉で伝えられなくても絵にはメッセージが表現されている。」そう話してくれたのは、市内で絵画教室を開く羽中田桂子さん。俊樹さんの絵の先生です。「表現することは誰にとっても必要なこと。彼が輝くためには指導者や家族の支援だけでは足りない。彼の活動への理解、周囲の応援が必要。一人を盛り上げることで全体が変わっていく。それがきっかけでみんなが優しい気持ちになれる。そんなまちになってほしい。そのために、まずは身近な人をフォローすることを考えている。みんなで助け合えるまちを目指していきたい。」と語る羽中田さん。俊樹さんの手元を見つめるその目はとても穏やかでした。



▲俊樹さんが手掛けたシャッターアート作品

個性を尊重することが大事

俊樹さんが絵画教室に通うきっかけは、何もしゃべらないけれど落ち着きなく動き回る俊樹さんが絵を描くときは集中している様子に気づいたこと。俊樹さんの母・香織さんは「羽中田先生との出会いがいろいろな人とのつながりを生み、今も広がりに続けている。彼が活躍する機会を与えてもらえて親としてはうれしいことだし、本人の自信にもなっている。彼のペースで自由に楽しんでやってほしい。」と笑顔を見せてくれました。障がいのある人もない人もともに支え合い、共に生きよう。みんながいきいきと暮らしていきたいですね。



「基幹相談支援センター」
 平成26年4月から、市の相談支援体制を強化するため、福祉課障がい福祉担当に福祉総合相談窓口「基幹相談支援センター」を開設しています。障がい福祉を中心としたさまざまな相談に専門職員が対応します。必要に応じて専門機関や関係機関と連絡・調整を行い、問題を解決するお手伝いをしています。障がいのある方が地域でいきいきと暮らせるようにサポート体制を整えていますので、お気軽にご相談ください。

正しい配慮を…障がいの種類を理解しましょう！

視覚障がい

全く見えない全盲、視力が弱い弱視、見える範囲の狭い視野狭窄などの障がいです。



点字ブロックの上に自転車等を置かないようにしましょう。道等に立ち尽くしている方がいたら声をかけてみましょう。

聴覚障がい

全く聴こえない、聴こえにくいなどの障がいです。話し言葉で意思の疎通を図ることが困難です。



ジェスチャーを交えて、ゆっくり大きな声で話しましょう。筆談、口話、手話、空書などを用いてコミュニケーションをしましょう。

知的障がい

生活や学習面で知的な機能や発達に平均に比べてゆっくりになります。脳の機能障害によるものです。



ゆっくり丁寧にわかりやすい対応を心がけましょう。本人の意思等を尊重し、敬意を持って支援しましょう。

精神障がい

統合失調症やうつ病などのさまざまな精神疾患により、日常生活や社会生活がしづらくなります。



不安を感じさせないように笑顔で穏やかに接しましょう。周囲の人の理解と支えがあれば地域で安心して生活することができます。

肢体不自由

手や足、体幹などに障がいがあり、体を思うように動かせないなどの支障があります。



困っている様子を見かけたら声かけし、本人の依頼を受けてから介助しましょう。車いす使用者との会話時は目線を合わせましょう。

内部障がい

心臓、肺、腎臓、膀胱、直腸、小腸、肝臓などの機能やHIVによる免疫機能の障がいです。



携帯電話やたばこの煙等公共の場では周囲に配慮しましょう。HIVは偏見や差別が問題です。HIVを正しく理解しましょう。



心身障がい児(者)父母の会 会長 杉山 浩子さん

普通に生活がしたい。——きっかけは、娘の障がいから始まります。障がいのある子の親として特別を求めていたわけではなく普通に子育てや家庭生活を送りたい。普通に学校生活を送らせてあげたい。自分も子どもも普通の生活をするために父母の会への入会を決めました。昔は抱え込んでいたし、抱えるしかありませんでした。支援が必要だということへの理解も得にくかったです。障がいのある子どもの子育てで困ったのは、障がいの有無の判断のとき、保育園や学校などの就学時、就職活動。基本的には、健常者と同じ時に同じことで悩みました。父母の会に入ってから16年。会長を務めるようになってからは10年になります。平成26年

「相談することが大事」

度から「フリースペース」事業を始めました。月に1回、二コリで子育てや子どもの困りごとを相談できる場所を設けています。「一人で抱えてしまつとどんどん不安になってしまう。いろいろな情報があれば楽になれるかもしれない。」そんな思いで行っています。地域にもっと知ってもらうために、3年前から福祉の日記念まつりにも出張しています。支援してくれる人はたくさんいるので一人で抱え込まないでください。気になる段階でも構わないのでまず来てみてほしいです。多くの方に知ってもらって、活用してほしいと思っています。



▲「福祉の日」記念まつりで出張フリースペース

■問い合わせ 福祉課 障がい福祉担当 (内線182~185)